

## 第 2 回 中央区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 26 年 12 月 19 日（金）午後 1 時 30 分から午後 2 時 30 分まで
会場	市役所本館 3 階 対策室 2・3
出席者	<p>中央区自治協議会委員 出席 23 名            区 PTA 連合会 出席 1 名            教育委員                齋藤教育委員、織田教育委員、藤田教育委員、佐藤教育委員            事務局                教育長、教育総務課長・課長補佐・総務係長、教育総務課企画室長、                学務課長、施設課長・主幹、生涯学習課長・青少年地域と学校連携室長、                教職員課総括管理主事、学校支援課課長補佐 3 名、中央公民館長、中央区                教育支援センター所長</p>
議 事	<p><b>1 開 会</b></p> <p><b>2 教育委員代表挨拶 齋藤教育委員長</b></p> <p><b>3 出席者紹介</b></p> <p><b>4 テーマ「地域と学校の連携について」教育委員会事務局説明</b></p> <p><b>5 意見交換</b></p> <p><b>学校支援ボランティアの募集方法について</b>  <b>教育委員会事務局</b></p> <p>学校では、年度当初に学校支援ボランティアの年間の大まかな計画を立て、募集を行います。年度当初でのボランティア登録や、時期が来たらお声がけするなど、その都度募集している学校もあります。募集方法については、保護者や地域へのプリントの配付、また、直接公民館、図書館、地域の団体に足を運んでお願いするケースがあります。</p> <p><b>自治協委員</b></p> <p>ボランティアを募集することで、必要なボランティアは充足されているのか。それとも充足されずに困ったことはあるのか。現状を教えてください。</p> <p><b>教育委員会事務局</b></p> <p>各学校で工夫しながらボランティアを募集しており、今のところ集まらなくて困っているという声は聞いていません。それぞれの地域教育コーディネーターがいろいろなネットワークを使ったり、直に足を運んで学校支援ボランティアの方から協力していただいていると思っています。</p> <p><b>自治協委員</b></p> <p>学校支援ボランティア募集をどのような方法で周知すればよいのか。</p> <p><b>教育委員会事務局</b></p> <p>一般に広く公募をしたり、支援を受ける授業の時期に直接声をかけたり、</p>

また、新規事業を行う際に広く募集するところもあります。いろいろな方法がありますが、これからも情報交換を行っていきたいと思っています。

#### **自治協委員**

資料の実績推移データについて、中央区で実施校数 173、延べボランティア数 20 万 9 千はどのような数値か教えていただきたい。また、学校 1 校当たりのパートナーシップ事業にかかわる大人の人数は 10 人前後なのか、20 人なのか教えていただきたい。

#### **教育委員会事務局**

中央区だけではなく、全市の数値となります。

#### **自治協委員**

地域教育コーディネーターの数が増えていることはとてもよいことだと思いますが、男女別ではほとんど女性の方ですか。

#### **教育委員会事務局**

85 パーセントが女性で、男性が 15 パーセントです。PTA の役員の方になっているケースが多く、女性が役員になるケースが多いため、女性が多くなっています。

#### **ひまわりクラブ・ふれあいスクール事業の運営について**

##### **教育委員会事務局**

ひまわりクラブとふれあいスクール事業の連携について、合同研修会を開催したり、定期的に情報交換を行っています。また、ふれあいスクールの運営委員会にひまわりクラブの指導員も参加したり、定期的に情報交換を行うなど、子どもたちの利用の向上が進むよう各校の実情に合わせて取り組んでいます。今後も子どもたちが安心、安全に楽しく放課後を過ごせるよう、さらなる連携、一体化のあり方について検討していきたいと考えています。

#### **下町 4 小学校統合に伴うひまわりクラブとふれあいスクールの体制等について**

##### **教育委員会事務局**

4 校統合後もふれあいスクールを継続するため、準備を進めているところです。ひまわりクラブは、現在開設している北部総合コミュニティセンターが老朽化しているため、移転の準備を進めています。また、新しい校舎に移転後も、校舎の中にひまわりクラブを開設するため準備を進めているところです。

次に、教育委員会の支援については、4 小学校の統合実行委員会の各部会からの協議事項について、内容に沿って実現を図っていくように努めています。また、子どもたちの交流活動の実施、新体操着の支給を予定するなどの開校準備や、地域と学校パートナーシップ事業、ふれあいスクール事業では、移行期間の実情に合わせ予算面で配慮したりしています。

## **学区外就学について**

### **教育委員会事務局**

新潟小学校の学区外就学の申請は、共働き等で新潟校区内に下校後預かっていただく方が居住しているという理由が最多となっています。

学区外就学の保護者からの申請により申請理由を確認し、必要な証明書類を提出してもらい、認可基準に基づいて適正に判断し認可しています。

学区外就学児童の通学時の安全対策については、認可申請の際に、保護者が通学に関する責任を持つことと、安全な方法で通学させることを誓約書にて確認しています。今後は、児童の下校時の安全確認のため、教育委員会から学校に学区外就学児童の下校後の児童預かり先の確認に努めていきたいと思っております。また、地域の皆様からも見守り等ご協力をよろしくお願ひしたいと思います。

## **全国学力テストの結果公表による影響について**

### **教育委員会事務局**

学力テストの結果を他校と比較することで、学校間の序列化が進んだり、過度の競争が生まれたりすることは決して好ましいことではありません。どの学校でも子どもは真剣に学習に取り組んでいまして、学力の善し悪しをこの調査結果のみで論じることは、逆に子どもの学習意欲や自尊心に悪影響を与えかねないと考えています。そのような観点で、市では結果を、学校だよりの紙面を通じて、保護者や当該地域にのみ知らせるという方針をとっています。市から各学校の結果を公表することは現在行っていません。

次に、大規模校、あるいは小規模校によって学力の差が出てくるのかということについてですが、どのような規模の学校においても、それぞれのメリット、デメリットがありますが、全国学力・学習状況調査の結果においては、規模の違いによる顕著な学力差は見られません。規模の違いにかかわらず、それぞれの学校のよさを生かしながら、教師が保護者や地域と連携して丁寧に子どもたちの指導に当たっていくことが確かな学力につながっていくと考えています。

## **学童保育について**

### **教育長**

学童保育は福祉部が担当していますので、分かる範囲でお話しさせていただきます。

学童保育のひまわりクラブの指導員は、市の非常勤職員で、運営は社会福祉協議会に委託をしています。指導員を対象とした研修も行っています。ひまわりクラブでは、家族が仕事で不在の間、安全安心にお預かりするということを基本として、いろいろな遊びから宿題、おやつを食べることも含めて対応しています。指導員も子どもたちが自信を持ち、一生懸命に社会人として育ててもらいたいという思いでやっております。お気づきの点がありましたら直接指導員にお話しいただくか、学校の先生や、あるいは直接担当にお

話していただくなど、皆さまからもご協力いただきたいと思います。

### **自治協委員**

下町の4校統合と日和山小学校の開校に伴い、ひまわりクラブの設備を来年から、子どもたちにとって安心・安全な場所へ移転することを検討しているということですが、今、北部総合コミュニティセンターの老朽化に伴い、入舟小学校の2つの教室を使ってひまわりクラブを移転するという噂を聞いて心配している。入舟小学校は来年の4月から4校の児童が一緒になるため、すし詰め状態になってしまい、学校の施設が足りなくなり、教育環境の悪化が懸念される。プレハブだとお金がかかるとのことだが、何かをやればお金がかかるのだから、教育委員会も腰を据えて地域のために、さらなるストレスをかけないような配慮をぜひお願いしたい。

### **教育委員会事務局**

ご意見ありがとうございます。教育委員会でも子どもたちの安心・安全な学童クラブの位置ということで、所管の福祉部とも十分協議し検討させていただきます。

### **自治協委員**

新潟小学校は旧大畑小学校でひまわりクラブをやっている。そこには、附属小学校の子どもも一緒になって、子どもたちが100名を超えており、指導し見てくださる方々が少ないという現実と、附属小学校の方々が旧會津八一記念館が空くということで、学校の近くだから移りたいと思ったら、記念館を壊すという話があり、移るにしても行き先がなくなってしまう。面倒を見てくださるというか、指導してくださる方が少ないということで困っている現状をどこまで把握されているか、知っている範囲で教えていただければと思う。

最後に学区外通学児童の下校時の安全確認について、地域の皆様からのご協力をよろしく申し上げますとあるが、地域の町内会長として何を協力すればいいのか、具体的にどのようなことを希望しているのか教えていただければありがたい。

### **教育長**

ひまわりクラブの指導員の数は、子どもの人数に対し何人配置すると決められています。1人当たりの面積の基準もあり、人数に応じてどれくらいの広さが必要かも決まっています。そのような中でみんな工夫してやっていますが、新潟小学校は学校の中では無理ということで、今、大畑少年センターを使っています。とにかく子どもの安全が一番大切ですので、福祉部にも話を伝えておきます。

### **自治協委員**

横の連絡を取って、よろしく申し上げます。

### **教育委員会事務局**

ここに地域の方々のご協力をと記載しましたのは、今までもセーフティスタッフのように、児童生徒の登下校の見守りなどをしていただいております。そういったことも含めてお願いしますということでございます。

### **自治協委員**

ふれあいスクールとひまわりクラブを一体化し、コミュニティ協議会で見てもらうという話を聞いたような気がするが、やるとするならいつ頃までの計画なのか。学校ごとに差があるから、それぞれ進めるのか聞いてみたい。有明台小学校ひまわりクラブの校庭内への移転についても含めて願います。

### **教育委員会事務局**

文部科学省では厚生労働省と一緒にあって、子どもたちにとってプラスになるよう、ふれあいスクールとひまわりクラブの連携に取り組んでおり、市でもどのような連携が取れるのか、どうやったらお互いにいい方法で運営できるのかということを検討しているところです。

今、東中野山小学校では、コミュニティ協議会とPTAが共催となり、委託型のふれあいスクールを行っています。また、ひまわりクラブでは、木戸小学校と山の下小学校でコミュニティ協議会に委託して運営しているかと思えます。今後、一体的な取り組み方について、モデルとして検討していかなければならないと思えますが、今すぐに一体化をお願いするというものではないかもしれません。

### **自治協委員**

ふれあいスクールとひまわりクラブの顔合わせ程度の研修会を、この前初めて行った。ひまわりクラブの運営が教育委員会から社会福祉協議会に移ってから、ふれあいスクールとひまわりクラブの行き来が全くなかった。地域主体型、ふれあいスクールの融合型というのであれば、もっと行き来があってお互いに話し合う機会や意見交換もやりたいと思っているが、なかなかそういったことができないような現状なのです。

女池小学校は空き教室が全くない状況で、思い切って地域一体型の大きなプレハブを建ててもらい、一括してふれあいスクールをやったらどうかという話し合いを行ったが、市は検討させていただきますくらいの返事しかなく、担当課長の引継もしっかりされていなかったようだ。もう少し考えていただき、子どもたちが安心・安全で遊べる場所を提供していただきたい。

それから、今のひまわりクラブは、旧女池小学校の跡地で、手狭な環境にあり、活動に苦勞している。最初は費用がかかるかもしれないが、女池小学校の倉庫の場所に2階建てのプレハブを作り、子どもたちに環境のいい場所を提供していただけたらと思う。

### **教育委員会事務局**

子ども未来課、施設課、それから生涯学習課が連携したうえで対応させていただきます。よろしくお願いいたします。

### **教育委員**

連携はいいのですが、自治協の委員が一番心配されていることが、どこまで伝わっているのですか。

### **教育委員会事務局**

子ども未来課に聞きましたところ、今まで子ども1人当たり1.65平米というのは玄関、風除室や事務室を入れるかどうか、あいまいな大体の数字であったということで、今後は、玄関、風除室や事務室といったものを除き、1.65平米という基準が明確になりましたので、ちゃんとした広さを確保することになりましたといった話をいただいております。

それから、縦割りのお話をいただきました。大変、耳の痛い話で申し訳ございません。反省しまして、先日伺った際には、子ども未来課と私、課長同士で話をしたうえで伺ったつもりです。これから、学校施設の改修ということになりますと、私ども施設課は相当に責任を持つことになりますので、学校とも打ち合わせをしたうえで、スケジュールも学校に示し、工事のほうにかからせていただく所存でございますので、何とぞご理解いただきたいと思っております。

### **自治協委員**

ふれあいスクールとひまわりクラブの関係について、顔の見える行き来があったほうが、お互い同じ子どもを預かっているものですから、そういったことでご努力いただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

### **区PTA連合会会長**

PTAの抱える問題を質問します。

10年以上前から言われることですが、PTAは任意なのか、強制なのかという問題があります。実際、保護者の皆さんを見ていると、役員をやる、やらないなどでもめ事の原因になっているのです。なぜそういうことになるかというと、これはボランティアなのだという認識がないことが原因なのではないかと思っております。ぜひ市のほうから、PTAは任意のボランティア団体なのだということを告示していただけないでしょうか。

PTAの予算案の作成などにおいても、教育委員会の指導という錦の御旗があるとまわりの理解が進むという実例があります。繰り返しになりますが、ぜひ市のほうからもPTAは任意のボランティアなのだよと、自発的な前向きな気持ちで子どもたちを見守っていきこうという流れにできたらすばらしいPTAになるのではないかと考えておりますので、告示できるかどうかを伺います。

### **教育長**

PTA連合会に教育委員会から出向かせていただき、お話をさせていただく機会が年に何回かあります。また、教育委員とPTA連合会の役員の方々の懇談会などもあり、今のような疑問点は出てきています。どのようにしていったら子どもたちのためのPTA活動がうまくいくかということが一番大事だということで、今までも話し合いを行っています。

PTAの皆さんに対して、PTAは任意団体ですよ、子どもたちのためにボランティアでPTA活動を頑張りましょうということ、4月のPTA総会などの機会をとらえて呼びかけていけるよう、各学校に話していきたいと思っております。

PTA活動を行っている皆さまも、活動は楽しいのだよということを体にお示しとさせていただきますと、そんなに楽しいならやろうかなとなるのではないかと考えていますので、よろしくお願ひします。

### **自治協委員**

来年4月から日和山小学校が4校統合で新スタートしますが、教師の定員は児童数で決まるかと思ひますが、その決定権は教育長にあるのでしょうか。それとも市のほうにあるのでしょうか。お願ひですが、4校統合にあたり、児童の不安と教師の負担軽減のため、先生の数を増やし、安心感を与えるような教育体制を取っていただきたいが、可能でしょうか。

### **教育委員会事務局**

教員定数の権限は、文部科学省の規定に基づき県にあります。新潟柳都中学校の場合、統合加配は1年間定数1がつきました。このたびの統合は、4校が一緒になるので、市から県のほうに、人的手配の働きかけと、ぜひ手厚くしてもらえようお願ひしていきたくて考えています。

### **6 自治協議会委員代表あいさつ**

### **7 閉 会**